

放射線の健康影響に係る研究調査事業 令和4年度研究報告書

研究課題名	福島県外のライフイベントを迎える世代に向けた放射線リスクコミュニケーションモデルの構築と実践
令和4年度研究期間	令和4年4月1日～令和5年2月28日
研究期間	令和4年度 ～ 令和6年度（1年目）

	氏名	所属機関・職名
主任研究者	五月女 康作	福島県立医科大学・准教授
分担研究者		
若手研究者	三枝 高大	福島県立医科大学・助教

キーワード	放射線、偏見、リスクコミュニケーション、判定式、教育、放射線への態度
-------	------------------------------------

本年度研究成果
<p>I 研究背景</p> <p>東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生した2011年から12年が経過した。当時幼児期であった世代は現在中高生となりこれから多くのライフイベントを迎える。“ライフイベントを迎える世代”に向けた偏見や差別は今も根強く潜在している^[1]。しかし、これから約10年後、彼らがライフイベント（交友、結婚、出産）を実際に迎えるときに偏見や差別から生まれる不利益を受けることは絶対にあってはならず、「福島県」の“ライフイベントを迎える世代”の偏見・誤解の払拭・予防の手段が求められている。そのためには偏見や差別を生み出す根源になっている「正しい放射線知識の欠如」をタイムリーに是正しなくてはならず、これからの数年間はまさに待ったなしの年期と言える。本研究はこの状況を打開するため“ライフイベントを迎える世代”に向けて放射線知識を効果的にアップデートするための放射線リスクコミュニケーションを実践するものであり、10年前でも10年後でもなくまさに“今”やらなくてはいけない課題の解決を目指すものである。</p> <p>II 目的</p> <p>本研究の目的は、「正しい放射線知識の欠如」を是正して「福島県」の“ライフイベントを迎える世代”の偏見・誤解の払拭・予防の手段として、持続的かつ効果的に放射線リスクコミュニケーションを実践できるプラットフォームを構築するための基盤作りをすることである。</p> <p>III 研究方法</p> <p>(1) 放射線への態度調査とクラスター判定式作成</p> <p>(ア) 統一的基礎資料等の放射線知識を広める媒体の印象調査</p> <p>(イ) 放射線への態度を計るアンケート項目の選定</p> <p>(ウ) クラスター判定式の作成</p>

- (2) 教育マニュアルプロトタイプ作成と教育媒体の作成
- (3) プロトタイプでの放射線リスクコミュニケーションの実践
- (4) 診療放射線技師養成大学3年生を活用した放射線リスクコミュニケーション実践

IV 研究結果、考察及び今後の研究方針

- (1) 放射線への態度調査とクラスター判定式作成

クラスター判定式作成のためのアンケート調査は本学倫理委員会の審査後に、5回の予備予備調査と1回の予備調査を経て本調査を完了した。現在結果を分析中。

- (2) 教育マニュアルプロトタイプ作成と教育媒体の作成

教育マニュアル作成のための世の中に溢れている放射線情報に対する印象調査を本学倫理委員会の審査後に行った（一般大学生、医療系大学生）。その他、動画作成も行った。

- (3) プロトタイプでの放射線リスクコミュニケーションの実践

R5年度に実践するプロトタイプでのプレ実践に向けて参加する大学生の候補を挙げた。3大学から参加予定。

- (4) 診療放射線技師養成大学3年生を活用した放射線リスクコミュニケーション実践

R6年度に実施予定。

達成状況は概ね計画通りである。今後の計画として、まず初年度に行ったアンケート調査や印象調査の分析に注力する。

V 結論

現在までに、持続的かつ効果的に放射線リスクコミュニケーションを実践できるプラットフォームを構築するための基盤作りとして、クラスター判定式の作成と教育マニュアルの作成の準備を順調に進めている。R5年度は複数のアンケート調査から得られた結果をクラスター判定式作成に活かしそれらを成果発表していく。また、プレ実践に向けて班員の役割を再構成してR5年度後半での実践に向けて準備を進めていく。

引用文献

1. Mitsubishi Research Institute “Questionnaire survey on the status of reconstruction and health effects of radiation in Fukushima Prefecture” (<https://www.mri.co.jp/knowledge/column/20201222.html>)